KAN

環

山笑う
2013
第10号

千曲川地域の人と文化

NPO法人上田図書館倶楽部　　2013年4月

山笑う

「桃源郷」

　木々は芽吹き草花が咲いて、台地に躍動の時が訪れる。上田市武石の余里地区では、赤、白、ピンクの花桃たちが咲き誇り「世界でいちばんきれいな２週間」を迎える。長年にわたる地元の花咲か爺さんの活躍、心意気が民家の庭先や１里（４㌔）に渡る通り沿いを彩る。「一里花桃の里」は、訪れる人と地元の農家の人たちとの交流の場ともなり、山間（やまあい）にひとときの活気をもたらす。４月下旬から５月上旬が見ごろである。　　表紙写真・文　矢幡正夫

contents

4　図書館訪問記 シリーズ第７回
行政情報サービス . 農業支援サービスに挑戦する「新 東御市立図書館」
---------- 長野県図書館協会　宮下明彦

8　躍働　uno café 店長　小林信子さん ---------- 伊藤文子

11　信濃の美術館を歩く
尾澤木彫美術館　～木彫作品と木造建築美を楽しむ～
---------- 海野郁

14　パズル　ちょっといっぷく ---------- 萌

15　観点 「インドらしさを感じないインド訪問」
---------- 岡田基幸

18　千曲川地域の芸術家を訪ねる
ディベ ナバホチュロの店　　荻久保みちこさん
---------- 吉池みどり

22　連載「「ラ・マンチャの白い風」古都トレドに乾杯 ------- 桜田義文

25　ぶらり散策 「歴史を語る石」---------- ひが

26　寄稿 「忘却のえびす講物語」---------- 清水たか子

28　連載 「上田小県地域の歯科医療の源流を辿る 五」------- 村居正雄

34　あとがき

行政情報サービス・農業支援サービスに挑戦する

新 東御市立図書館

高校生が読み聞かせ

平成24年11月1日に「出会いを楽しむ　学びと創造の拠点づくり」をコンセプトにした新東御市立図書館が開館しました。

開館から3ヶ月経った2月の雪の日、新東御市立図書館に飯島貞夫館長を訪ねました。

開館以来入館者は平均６００人で土日は1，０００人近く、特に開館直後には1，３５５人の入館者を記録し、旧館の頃の4倍を超える入館者があるそうです。住民の皆さんが如何に新図書館の開館を待ち望んでいたかが分かります。

市庁舎と合築、滞在・研修型図書館

新図書館は市役所の新庁舎との合築、一体型が構造上の大きな特徴になっています。延べ床面積約

2，２００㎡、３階建で、メインフロアーの3階は、紙芝居が一杯の機関車に模した書架が先ず目に入ります。そして、千曲川をモチーフにした曲線のベンチ一体型書架が広々としたフロアーへ案内します。

開架11万冊の4割は絵本・紙芝居・児童図書が占めるとともに、紙芝居は1，６００タイトルと子ども向け図書が大変充実しています。

２階にはインターネット環境が整備された研修室が2部屋（50人用、20人用）配置され、１２０㎡の市民ラウンジの自由な空間が広がり、1階の郷土・行政資料室には調査用個室や書見台付きの閲覧席も備わって、滞在型・研修型のこれからの新しい図書館になっています。

高校生が定期的に読み聞かせ

東御市図書館はかねてより市内5小学校の学校図書館への支援が活発です。上田地域の小中学校はエコールにより結ばれていますが、その上に東御市図書館独自に児童書や調べ物学習の資料貸出を、学期中に全てのクラスに団体貸出がされているとのことです。その成果でしょうか、かつて田中小学校は読書活動部門で文部科学大臣表彰を受賞しました。

また、特筆したいのは、図書館と隣接して東御清翔高校がありますが、その図書委員会の学生が子どもや幼児・親子連れ対象に定期的な読み聞かせを行っていることです。高校生の読書離れが深刻なだけに、彼らの活動は大変貴重な活動だと思います。現在、委員会メンバーは10名ほどですが、そのうちの一人は将来声楽家を夢見ているそうです。夢がかなうといいですね。

行政支援情報サービスをめざす

新東御市図書館は行政情報サービスをめざしています。

行政支援なんていうと少し仰々しいのですが、要するに市役所の職員にもっと図書館を使って欲しい、仕事に役立てて欲しいということ。

これからの日本は、地方分権、地方の時代で自分で情報収集し、自分で考え、自立していかなければならない時代に入っています。

そのとき情報面で役立つのが実は図書館なのです。例えば、東京

都日野市の市政図書室、鳥取県の県庁内図書室はそういう目的で設置された先進的図書館です。

新東御市立図書館は市役所と合築され一体的な建物となっています。この立地条件を活かして、先ず市役所の職員や議員さんに大いに図書館を使ってもらうとともに、市民が行政情報にアクセスしやすくすることも今後のサービスの柱の一つにしたいと飯島館長は語ります。

そのために、図書館が行政情報の窓口になる。例えば、法令、国政調査、各政府機関からの情報や統計資料、全国の先進事例、市の予算書・決算書、規則、各種報告書、地域の歴史、自然等々の資料を収集・蓄積したい、市役所の関係部局と連携し、これまでの経験を活かしたいと意欲的です。

行政情報サービスには、それらのデータを図書館が加工して市民に分かりやすく提供する、市役所職員の情報へのアクセスをサポートする、利用者講座を開くなども今後の課題になるでしょう。また、専門的知識を持ち、要望に合わせて的確な情報を紹介したり、情報を効果的に活用できるノウハウを持つ有能な司書が欠かせません。

「使いにくい行政情報を使い勝手のよいものにして、効果的にアクセスできる仕組みが作り出されてはじめて、真の意味で市民が情報を手にすることができる」と、国際的なジャーナリストの菅谷明子さんは『未来をつくる図書館』で述べています。

千曲川ワインバレー

東御市には有名なワイナリーが3ヶ所あります。

最近、東御市はじめ、小諸市、上田市、坂城町、千曲市、須坂市、高山村、小布施町を結んで千曲川ワインバレー構想が浮上しており阿部知事も本腰を入れているようです。

千曲川流域のこの丘陵地帯は冷涼で降水量も少なく、しかも日照日が多くさんさんと陽が降り注ぎ、フランスのボルドー地方と大変よく似た地形、気候でぶどう産地として申し分ないのだそうです。そして将来の姿が、「ぶどう畑に囲ま

れたワイナリー周辺には緩やかな丘と里山の森が広がり、静かな散策の小道が山の稜線まで続く。ワイナリーから程近いところには眼下に流れる川を見下ろすようにレストランやホテルやペンションがやはり点在している。最高のぶどう畑は川の見える場所にある・・・」（平尾勇「千曲川と犀川のワインバレーを夢見て」）と語られています。

図書館が農業支援サービス

このような夢のある地域展望に対して、図書館が何かできないだろうかと飯島館長は構想を練っているようです。

ワイナリーは、専用ブドウづくりの農業（1次産業）の顔、発酵や醸成の高度な加工技術や品質管理技術を駆使したものづくり（2次産業）の顔、さらに、流通サービス業（3次産業）の顔をもち、いわゆる6次産業といわれます。

それぞれの顔に応じて、図書館がその機能を発揮させることができないだろうか。

例えば、

①関係する図書、雑誌を継続して集積する。例えば、ブドウが出てくる絵本や文学作品のコレクションづくり、専用のデータベースで情報を検索する。②千曲川ワインバレーに関するリンク集を作る。③図書館の研修施設を使った技術研修会の開催 ④自由に出入りできる図書館の特性を活かした交流会、専門家と農林課等の行政との情報交換の場⑤図書館がこれらの研修や交流ができるようにするための仲介役、コミュニティーファシリティー役を果たすなどが考えられます。

地域課題解決支援や仕事に役立つ図書館サービスが全国で標榜されていますが、東御市のこれらの新しい行政情報サービス、農業情報支援サービスが具体化すれば画期的なサービスとなることでしょう。

新東御市立図書館の挑戦に大いに期待したい。そんな夢のある話をお聞きしながら図書館を後にしました。

平成25年2月

長野県図書館協会　宮下明彦

フロンティア躍働

uno café 店長
小林信子さん

「子育てしながら仕事もしたい。働くなら周囲に気兼ねせずに自分らしく」と雇用されるのではなく自ら起業する若いママさんが増えている。とはいえ、ゼロからビジネスを立ち上げるのは容易ではない。そんな中、二人のお子さんを育てながらカフェを開いたママさんがいる。uno café の店長、小林信子さんである。お店のある上田市海野町に小林さんを訪ねた。

店に入ってまず驚くのが店内の広さだ。普通のカフェの2～3倍、小ホールと言ってもいい。そこにテーブルと椅子がゆったりと置かれている。中央にはアイランドキッチンがあり、その中で小林さんはにこやかに迎えてくれた。タイトな黒いエプロンに身を包んだ小林さんは、スラリとしてファッションモデルのようだ。爽やかな雰囲気

も漂っている。そんな小林さんにまぶしさを感じながらインタビューを始めた。

小林さんは京都市出身で、結婚前はプロのスノーボーダーだった。物静かな表情からは激しい競技選手だったとは想像できないが、海外遠征は数知れず、アメリカ、カナダ、ニュージーランドなど多くの世界大会に出場した。活躍を重ねると同時に、インターナショナルなセンスと英会話を身につけた。

結婚を機に引退し、家庭に入る。二人のお子さんに恵まれ、現在4歳の男の子と1歳の女の子のお母さん。育児が大変な時期にも拘らず、昨年11月この店を開業した。

Q カフェを開くまでのいきさつを聞かせてください。

「知り合いから『建物が空いたので何かに使ってくれないか』と話があったのです。ちょうど息子がイヤイヤ期で、閉塞感から抜け出したい気持もあって、やってみようかと思いました」

Q とは言っても初めての経営で不安はなかったですか?料理など心配はなかったですか?

「あまり深刻に考えませんでした。力まずにやってみよう、という感じでした。料理は好きです。特に天然酵母を使ったパンなどは家でよく作っていました」

Q どんなカフェにしたいですか?

「誰でも気軽に立ち寄れる店にしたいですね。特に小さいお子さん連れのお母さんや高校生、外国の方たちにも来ていただきたい。そのために価格はできるだけ抑えました。コーヒー230円、手作りワッフル90円など」

Q オープンして3ヶ月、手ごたえはどうですか?

「少しずつお客さんが増えています。外国人も見えるようになりました。高校生も下校途中に寄ってくれます。毎夕1〜2組の高校生がワッフルを食べながら勉強していきます。来月末には高校卒業記念パーティの予約も入っていて、今か

店内を彩る観葉植物

タイ山岳民族の手作り品

らメニューなどを考えています」

このように、持ち前のスポーツマン根性とコミュニケーション力で、経営は軌道に乗りつつある。

インタビューの間、1歳のお嬢さん、にこちゃんは三輪車で走り回ったり、キッズコーナーのおもちゃで遊んだりしていた。ここは小さなお子さん連れのママさんに配慮したスペースだが、にこちゃんの遊び場ともなっている。「以前は人見知りが激しかったが、今は人懐っこくなった」と小林さんはお母さんの顔を見せる。

壁面には外国雑誌やエスニック風のバッグや小物が飾られている。フェアトレードで仕入れたタイの山岳民族の手作り品で、売上金は現地の子どもたちの就学援助に使われる。海外経験が長い小林さんの視野は国内にとどまってはいない。

外国人と日本人が隣同士でコーヒーを飲む。傍らで高校生が勉強。人種を超え、世代を超えた交流が生まれる日も近いであろう。

Q 最後にこれからの抱負を。

「お客さんの声を聞きながら、地域に親しまれるカフェにしたいと考えています。自分が高校生だった頃やりたかったことを提案したり、お母さんを対象にしたワークショップを開いたりしていきたい」

「グローバルに考え、ローカルで活動」を実践している小林さんのアイディアはオリジナリティに溢れている。

平成25年2月6日訪問　伊藤文子

キッズコーナー

おざわ　もくちょう　びじゅつかん

尾澤木彫美術館

～木彫作品と木造建築美を楽しむ～

上田は農民美術発祥の地である。大正８年、山本鼎は上田で児童自由画運動と農民美術運動を興し、全国的に大きな影響を及ぼした。農民美術の第一人者である尾澤千春さん（２００４年逝去）も、影響を受けて木彫家となったひとりである。

尾澤木彫美術館は、千春さんの息子でやはり木彫家の敏春さんが、新潟の豪雪地帯にあった古民家を上田に移築して１９８９年に開館した。

底冷えのする一日、上田市国分にある美術館を訪れた。欧風な外観だが、内部はケヤキやブナなどの木組みで造られた重厚な日本の木造建築である。敏春さんは独自の観点から随所に工夫を凝らし、さまざまな角度から木組みの様子がわかるようにしたという。

館内には、飾鉢や衝立（ついたて）、盆や箱物などの木彫作品約１５００点を収蔵。千春さん親子の作品はおもに1階と3階に展示されている。千春さんの初期から晩年までの作品と、彫刻家でもある敏春さんの個性あふれる作品群は、それぞれに存在感を放つ。２階には日本の木彫人形の他、30数か国の木彫人形がバラエティー豊かに展示されていて、実に興味深い。

Q お父さんの千春さんについてお聞かせください。

父は近くに住んでいた＊初代・中村實（みのる）さんに誘われて弟子入りし、農民美術の道に入りました。山本鼎にも会ったことがあるそうですよ。木彫教室で教えながら、自宅の仕事場で10数人の弟子を育て、私もその中で育ちました。父はデザインなどを独自で勉強し、当時としてはかなり型破りな作風だったようです。

＊初代・中村實（１８９４～１９７７）：木彫家。山本鼎記念館初代館長。現在は三代目の中村実が工房を引継いでいる。

Q 敏春さんが木彫の道を選んだのは。

小さいうちから見よう見まねで覚え、自然にその道に進みました。父に「代わりに行ってみるかい？」と言われ、私も教室で教えたこともありましたよ。ただ大学には木彫専門の科が無かったので、武蔵野美術大学では彫刻を学びました。

Q 新潟から民家を移築して美術館を建てたそうですね。

新潟の豪雪地帯にあった茅葺屋根の古民家を譲ってもらい、解体して上田に運んで8日間で組み立ててしまいました。木は生きているのでほっておくと膨張したりして合わなくなってしまうんですよ。その後は2年間かけて現在のように造り上げました。

玄関にはヨーロッパで魅せられたステンドグラスを付けましたが、太陽が動くにつれて虹色の光も移

尾澤敏春さん（１階展示室にて）

動してきれいですよ。建物の内部も、骨組が見えるように壁や天井を外して遊び心満載にしました。3階から1階を見下ろしてみてください。建物の高さが実感できますよ。和室には、父に頼んで山野草の天井画を描いてもらいました。

Q　2階に展示されている人形はどのようにして集められたのですか。

大学卒業後、イタリアを皮切りに1年かけてヨーロッパ各地を回りました。その間、工房を訪ねたりしながら木彫人形を集めたんです。ことば？　英語もあまり話せなかったけれど、何とかなりました。若かったんですね～（笑）その後も1年おきぐらいに外国に行き、その都度集めてくるので、現在では1300点くらいになりました。

3階展示室

Q　今後の活動についてお聞かせください。

現在は、自宅や長野などで70名くらいの生徒さんに木彫を教えています。また私自身は、展覧会に出品するため、彫刻の制作も続けています。

それから、2階にある人形のコレクションが2000点くらいになったら、庭に土蔵を移築して展示したいと考えています。今、長男がバリ島に渡って木彫を習い、次男もイタリアで学んでいますが、ふたりが戻ったら力になってもらいたいと思っています。

Q　上田市殿城にも「喫茶風香&風の夢ギャラリー」がありますね。

やはり新潟から古民家を移築して建てたものです。2009年から喫茶を営業、展覧会やコンサート、朗読会も行われます。宣伝もせず、山の上の不便な場所にもかかわらず、リピーターが結構いるんですよ。晴れた日には遠く槍ヶ岳まで見ることが出来ます。

スエーデンの人形

尾澤木彫美術館は、開館から四半世紀が経とうとしている。ただ、

今の時代、木彫はぜいたく品とみなされてなかなか売れず、美術館を訪れる人も少ないとのこと。木彫作品の宝庫である尾澤美術館は、農民美術の歴史を知る上でも一見の価値がある。木造建築の美しい空間にもふれてほしい。

平成25年2月8日訪問　海野　郁

尾澤木彫美術館

料金　大人５００円
　　子供(小・中学生)２００円

開館時間
４月～10月　9:00～18:00
11月～３月　9:00～17:00

年中無休

所在地
〒386-0016　上田市国分５８０
TEL　0268-22-4337

五文字熟語

回答

草		期
日		帳
百		紅

金		犀
申		書
鍬		虫

リスト

売　流　菜　即　人
会　木　込　形　念
三　主　日　食　立
急　義　日　目　展
者　記　本　示　創

新		開
心		理
司		者

後		談
根		葉
漂		記

横に三文字熟語
縦に五文字熟語
最後に残った文字で五文字熟語を作りましょう

パズルコーナー
ちょっといっぷく

観点

インドらしさを感じないインド訪問

2 月 24 日から 1 週間、寒さの残る上田を離れ、熱帯性気候のインド南部の都市、チェンナイとバンガロールを訪問した。インドは 2050 年にはＧＤＰが世界一になるといわれ、そのインドにおける中核産業の自動車産業の調査である。初めてのインド訪問だが、出発 3 日前に、バンガロールの近くで爆弾テロがあり、十数人が死亡、100 人余りが負傷と聞き、気分の滅入る重苦しい出立。

インドの話を書こうとしたが、朝から晩まで企業訪問、工場視察、政府関係者や現地駐在員との懇談会と、観光らしいものは全くない。宿泊先もインターナショナルな高級ホテルでインドらしい雰囲気もあまりない。食べ物、飲み物にも全く困らず、移動のバス車内、滞在先、訪問先はクーラーが利いて大変過ごしやすい。インドらしい雰囲気を味わったことといえば、正直あまりない。言い換えれば、新興国といわれる国であっても、先進国並みの衣食住が提供できる場所が整備されつつあるということだ。さらにいうと、一国の中で、富む者と貧しい者の差をこれほど表してよいかは疑問に残る。

ルノー日産の工場で出荷を待つ自動車

インドの自動車産業は、王者のズズキの後を、ヒュンダイ、タタ、マヒンドラの先頭集団にホンダ、トヨタ、日産が準備

を整え、ジワジワいや一気に攻め寄る構図。各メーカーは、単にインド国内での販売だけが目的ではなく、インドから欧州、アフリカ、ブラジルに輸出しようとの計画もあるようだ。いつの日か、日本で走る車はインド製となるかもしれない。ただし、多くのメーカーが部品は全て、インド国内からの調達の方針で、インドでの日本企業の活躍が日本の国力の増強に繋がるとは言い難い面もある。

販売中の工業団地

さて、写真は、市街地から、バスでガタガタ道を約２時間のところにある工場団地。右下に映るのはヘリポートの一部。さすがに、電力、道路のインフラは未整備で、従業員も容易には集まらなさそうなこの荒野の果てに、日系企業の進出はないと思いきや、既に日系企業と水面下で交渉中とのこと。企業と州政府で一気に街までつくるらしい。日本から遠く離れた地にて、たくさんの日本の企業と日本人が頑張っています。アルジェリアにて被害に遭われた日本人にあらためてご冥福を祈る。

財団法人上田繊維科学振興会　理事
信州大学繊維学部　特任教授・工学博士
岡田基幸

「真田氏の心」

ド、ド、ドーンと耳をつんざく音と同時に白煙が立ち上(のぼ)る。朱色の甲冑に身を固めた姿は凛々しく、戦国時代にタイムスリップしたかのよう。真田氏御屋敷公園での一コマ。城の守りと攻めにはなくてはならない鉄砲隊は、徳川、豊臣の戦いに貢献した、まさしく真田氏の赤備(あかそな)え(あらゆる武具を朱塗りにした部隊)である。

写真・文　矢幡正夫

おもしろWeb

長野県市町村史誌　目次情報データベース

http://misuzu-mokuji.net/

長野県誌と長野県内の市町村市誌を網羅して、その目次を表示、検索することができます。
史誌は、自治体が長い時間と費用をかけて作り続けてきた地域研究のための基本的な資料です。
このデータベースを使うことで、他地域の誌史の内容を知ることができます。

「ディベ」～ナバホチュロの店～
荻久保みちこさん

http://dibe.historie.jp/

まずナバホ族について語ろう

ナバホ族は、アメリカのアリゾナ州北東部からニューメキシコ州にまたがるフォー・コーナーズの沙漠地帯に一定の自治権を保有する「ナバホ・ネイション」として、アメリカ最大の保留地を領有している。ナバホとは涸れた谷の耕作地という意味で、民族的な色彩が色濃い。人々は今でも正装には、鉢巻きを締め、女性はベルベットのロングドレスにカボチャの蕾を意匠にした「ナバホ・コンチョ」と言う銀の首飾りをする。ターコイズと銀を用いた宝石細工はナバホ族の独特の工芸であり、人々のほとんどはこの装飾品を身につけている。「インディアン・フルート」の奏者も多い。「ナバホ・ラグ」と呼ばれる精巧な絵柄の羊毛の敷布は19世紀に貴重な交易品となり、現在も珍重

されている。

ナバホ族は第1次・2次世界大戦の時米軍兵となって、対ドイツ、対日本戦に加わり、ナバホ語は解読が非常に難しいため暗号として使われた。後に「ナバホ暗号部隊」に参加した長老の「敵である日本人に親近感を覚え動揺した」との言葉が残っている。そんな国の織物に魅せられて生涯をナバホ織に捧げた女性が上田市に居る。ナバホチュロの店「ディベ」の荻久保みちこさんである。

ナバホチュロの店「ディベ」について

ドアベルを鳴らして、上田市常田にある店内に入る。部屋の広さは100㎡くらいだろうか。竪織機やスウェーデン織機・糸繰機などが所狭しと並べられ、生徒さんが一生懸命自分の織機に向かっている。

糸はナバホチュロの糸を使う。まずはナバホ在住の日本人女性ズニさんが、インディアンから毛を買い付け、綺麗に洗浄したものを工場で糸にしてもらう。次にそれをナバホの大地から採取した草木で染め、アリゾナの太陽のもとで媒染して仕上げる。ナバホチュロは、ザラザラした手触りの長い毛を特色とする。それを日本に送ってくる。その糸は現地でも素晴らしい糸と称賛されているが、注文しても気長に待たないと品物はすぐには届かない。何しろ沙漠と地平線が空まで続く砂埃の道しかない所だから。時間の観念も金銭感覚も私たち日本人とは違うのだ。

アメリカインディアン・ナバホ族に伝わる独特の織機（竪機）で織った物をナバホ織という。織の技術の素晴らしさは比類ないものである。派手さは無いが自然の優しい風合いを持つ。ナバホラグは、4つの方向に調和のとれた世界を歩むというナバホ族の宇宙観を表した織物である。彼らの言葉で「ホッ

ジョ」という、美と調和の、「ウォーク・イン・ビューイの祈り」を織り込んでいく。絨毯のように敷物にしたり、壁掛けや厚手のセーターにもなる。

本来のナバホ織は竪機で織る。しかし荻久保さんは、家庭でも気軽に出来るよう竪機をそのまま小型化した織機「ミニナバホ」を独自に考案した。教室の生徒さんはそれを使っている。

荻久保さんとナバホの出会い

12年前、荻久保さんはナバホ族の住むアリゾナ地方を旅した。その時、アリゾナに住んでいる日本人の友人に「彼らは現金収入がない、だが羊の毛は毎年採れるので、それを売って現金収入に繋げてあげたい」と相談され、思わず「私がやるよ」と言ってしまった。トレーディングポストを回ると美しいナバホラグが所狭しと飾ってあった。それらの織物は、「地球の呼吸を聞きながら織る」と言われる。それほどの宇宙的な幾何学模様の斬新なデザインに目（心）を奪われ、その独特の美しい織物に魅了されてしまった。

今年も荻久保さんはナバホツアーを企画しアリゾナの地を訪れた。5回目になるアリゾナへの旅でやっと憧れのナバホのウィーバー（織人）、サラ・ナターニさん（75歳）に直接ナバホ織りの手ほどきを受けることができた。サラ

さんにはナバホ織りの心を教えてもらった。サラさんはテクニックよりもまずナバホのカルチャー（考え方、人生観）を伝えたいと言った。すべてはその考え方に基づいている。その一番大切な事を12年目にやっと知ることが出来たそうだ。

サラさんが、荻久保さんたちのナバホ織の事を、「ジャパニーズが織っているナバホ織だから、ジャバホ織ですね」と命名してくれたので、荻久保さんたちのナバホ織は認めてもらったことになる。同行の仲間たちもそれぞれのレベルで学ぶものは大きかったはずだ。

今後の活動について

２０１４年５月には、八ヶ岳高原を会場にしたワークショップを計画している。初級５日間、上級５日間のナバホ織教室である。小型の織機で取り組んでもらうが、講師にサラ・ナターニさんと娘のタニーバさんが来日してくださることになった。こんなに嬉しいことはなく、その準備に今から心が弾むと、荻久保さんは美しい瞳で笑った。

インタビューの途中で荻久保さんがかけたＢＧＭは、ナバホの音楽エイシャントビジョン（古代）のＣＤ。室内は厳かな世界に変わった。

平成24年11月2日訪問

吉池　みどり

おもしろWeb

気象庁　防災気象情報

「気象庁発表の気象情報によると・・・」という言葉を耳にしたことがありませんか。

その「最新の気象情報」を下記から見ることができます。

http://www.jma.go.jp/jp/kishojoho/103_index.html

また、黄砂予測図も下記から見ることができます。

http://www.jma.go.jp/jp/kosafcst/index.html

連載 ラ・マンチャの白い風 桜田義文

古都トレドに乾杯

スペイン・ラマンチャの旅の最終日はいつもラマンチャ州の州都、そしてスペインの古都・トレドで一泊することにしている。

トレドはラマンチャの大平原とトレド山地の境目にあり、三方をタホ河の渓谷に囲まれた天然の要塞である。トレドに入ったら、まずタホ河の外周道路からのトレドの全景を楽しむとよい。ベストポイントはパラドール・デ・トレド（国営ホテル）のテラスからの一望、ここでコーヒーを飲みながらトレドをスケッチする至福の時がたまらなくいいのだ。

ゆっくりと時間を過ごし外周道路を回って西側のカンブロン門から城内に入る。直進するとエル・グレコの家にでてくる。その前にホテル・エル・グレコがある。トレドの城内でいつも泊る宿だ。チェックインする間はホテルの前に駐車できる。部屋に荷物を置いて、車を移動する、けっして北や東に上がってはいけない、そこは魔物がすむ迷路である。入ってきた道を戻りながら駐車スペースを探す。

トレドの城内はまさに迷路、ここでは地図などまったくやくにたたない、七歩すすんでは立ち止まり、十歩すすんでは左右を見る。しかし行きは良いよい帰りは恐い、なぜならめざすカテドラル（大聖堂）もアルカサ―ル（城）もこの台地の一番高い所にあるのだから迷いながらも上へ上へあがればなんとかなるのだ。はたしてのぼるにつれて人が多くなりやがてカテドラルのまえの小さな広場にとびだす。太陽がまぶしい。ここまできたらまずバールでビールを飲もう。ゆっくりしてトレドの時間や環境に体と気持ちをならすことだ。トレドでは迷うことが悦楽なのである。ただ足にまかせて、嗅覚だけをたよりに彷徨することだ。

スペインを旅していると、よくいわれる言葉がある「もしあなたが、スペインに1日しか居られないとしたら、あなたは迷わずトレドへ行きなさい、なぜならそこには古き良きスペインのすべてがあるから」

この岩の台地は、直線にすると千mほどのほぼ円形の岩山で、タホ川との高低差は三百メートルぐらいある。川のない北側にだけ頑

トレドの朝　　水彩画　　１０号　　桜田義文

丈な城壁をめぐらせ、そこに正門であるビザグラ門とカンブロン門を作り、取り囲むタホ川にはアルカンタラとサンマルチノの二本の橋をつくった。

　トレドを制するものスペインを制するとばかり、トレドをめぐっての攻防がくりひろげられてきた。ローマが滅亡すると、ゲルマン民族であるゴート族がトレドに入って三百年ほどスペインを統治した。七一一年イスラム教徒である北アフリカのモーロ人たちがスペインを制圧しトレドに入った。このモーロ人はイスラム教徒であったが、非常に寛容な統治をおこない、トレドではキリスト教もユダヤ教もイスラム教も共存し、そのため現在でもイスラムのモスクやユダヤのシナゴーグがいくつも残されている。

　この時代のことをスペイン人は次のように表現する。キリスト教徒たちの軍事力、イスラム教徒たちの農耕、潅漑、建設、工芸の力、ユダヤ教徒の医学や金融の力が一体となってトレドを世界一の文化都市にしたというのだ。

　現在のトレドはほとんど中世のトレドと変わっていないという。しかしそれは外観だけのことで、十五世紀にキリスト教徒たちがながいレコンキスタ（国土回復戦争）のすえアルハンブラから最後のイスラムの王を北アフリカへ追い出し、あわせてユダヤ人たちを国外へ追い

出したとたん、緑豊かなアル・アンダラスは羊のとびかう荒野になってしまった。こうしてあれほど繁栄したトレドも盗賊や山賊が荒らしまわるさびれた街になってしまったという。十七世紀になると、都はマドリッドに移され、化石のようにトレドは長い眠りに就いた。同時にイスラム教もユダヤ教も地下にもぐってしまった。

そして現在、長い眠りから覚めたトレドは世界遺産などとよばれ二千年の歴史がこの狭い岩山に重なり合う。ローマ、アラブ、キリストの文化や建物、食べ物までもが共生する不思議な街、悪魔と天使の街、迷路の街・トレドにカンパイ。

パズルの答

草	創	期
	立	
日	記	帳
	念	
百	日	紅

回答
菜食主義者

金	木	犀
	目	
申	込	書
	人	
鍬	形	虫

新	展	開
	示	
心	即	理
	売	
司	会	者

後	日	談
	本	
根	三	葉
	急	
漂	流	記

ぶらり散策

歴史を語る石

前号の記事のため、写真を撮りに玄蕃山に行った時のことです。ふと、斜面に大きな石がゴロゴロしていることに気付きました。良く見るとそれは古い石積みが崩れたもののようです。南側の斜面にはしっかり残っており、かつては山全体に巡らされていたと推測できました。それはいったい、いつの時代の、何のための石積みだったのか気になりました。

高速道が出来る以前、この山の斜面には、田んぼと果樹園と雑木林がありました。けれど石積みはそれより古そうです。文献を調べると、養蚕が盛んだった明治の頃に開墾され、辺り一面桑畑であったと分かりました。

では、その石積みの石はどこから運んできたのでしょうか？　山のすぐそばに矢出沢川が流れています。周辺にはかつての水害で運ばれたとみられる大きな石がゴロゴロしており、その石は石積みの石とよく似ています。

水害に泣き、しかしその石を皆で運び開墾に使い、桑を植えて養蚕で栄え、やがて衰退する・・・・・・転作して生きてきた先人たちの歴史が見えた気がしました。

この山の斜面には今は桜が植えられ、美しい姿になっていますが、100年、200年後には、いったいどんな姿になっているのでしょう。そこにまだこの石達はあるのでしょうか？　　（ひが）

忘却のえびす講物語

清水たか子

（1）

上田近郊の中高年の人なら、かつてのえびす講の隆盛を覚えている人は多い。上田の塩尻生まれの夫は「11月末のえびす講には1年働いて貯めたお金を持って、原町や海野町に出かけたものだ。正月用品を買ったり冬の衣類を買ったり、押すな押すなの人ごみの中で買物をする母について行くのが楽しみだった」と話す。また「小さい頃、今の大星神社のある所が河原になっていて、そこでえびす講の時花火を打ち上げていた」と回顧している。大星神社では今は花火の打ち上げはなく、毎年8月に千曲川の河川敷で、花火大会を行っている。

この数十年の間に何があったのだろう。上田商工会議所の記録や原町の歴史の記録にえびす講が出てくるのは、日露戦争の講和ができた明治38（１９０５）年からである。私が起源を調べているのを知って、属している「上田・小県近現代史研究会」の小平千文会長が一枚のコピーを手渡して下さった。そのコピーを見ると「信濃上田のえびす講市と称するは天保九（１８３８）年十月二十日より始まりたる事にて、近年は尚更に一層の盛況を呈するに至れり」とある。まさに驚くべき発見である。今から約１７５年前の江戸時代の天保年間にえびす講は始まったのである。長野市でえびす講の花火大会が始まったのは、明治32（１８９９）年であるから、いかに上田が養蚕という産業で江戸時代後期より他地域を抜いて収入があったかが分かる。

前述のコピーの出所は明治憲法が発布された明治22（１８８９）年に出版された「風俗画報」であ

る。日本初のグラフィック雑誌で517冊の1冊（明治38年出版）の中から、平林堂書店（上田市原町）の会長が発見されたものだという。私は膨大な「風俗画報」を所有している平林堂書店の二階で「風俗画報」の一部を見せていただいたが、一冊一冊が明治期の格調高いデザインに満ち溢れ見とれてしまった。「風俗画報」は明治になって世の中が少し落ち着いた明治22年に西欧のグラフ雑誌の影響を受け、はじめ主として石版画、後に写真版が挿入された四六倍版（254×188）の雑誌で、日本で初めて誌名に「画報」の文字が使われた。江戸時代の風俗の考証やその時代各地に伝わる地方風俗の紹介などを後世に伝えるという趣旨のもと、「東陽堂」という出版社が大正5（1916）年までの27年間に517冊も出版した。

この画報の明治38（1905）年版に堂々と上田の西山賢作（西山さんの詳細は不明）さんが「信濃上田の恵比須講市」として全国に発信している。この頃すでに上田のえびす講市は全国的に知られた高い文化を持った市として大変盛況であった。人出は地元以外にも県内はもとより全国から人が集まった。西山賢作さんの文中に、えびす講が天保9（1838）年に始まったいきさつが書かれている。

『天保9年の夏、原町に市神社を築造し、10月20日を祭典日と決めて即えびす講の日とした。175年前のその日の景品は福金着を作り、その中に一朱二朱或は天保銭3・4枚ずつ入れ、当日に限り売渡物品の代価の多少に拘わらずこれを与えた。明治元年えびす講の祭典の日を11月20日と改定した。明治38（1905）年の店飾りは「美濃屋覚太郎の古着店」では二階のひさしへ縮緬着類の揃物50組余も掛け揃え、「萬屋三十郎の時計店」では時計で大いなる鳥居を作り、「蔦谷房次の塗物店」では膳箱を高さ三丈に積重ね燈台を造りその上へ火を点じた』などなど何軒もの様子を伝えている。前述の原町の市神社は今もその場所にしっかり立っている。（つづく）

原町の市神社

れんさい

上田小県地域の歯科医療の源流を辿る　五

日本歯科医学史学会会員
元海野町歯科診療所長
村居　正雄

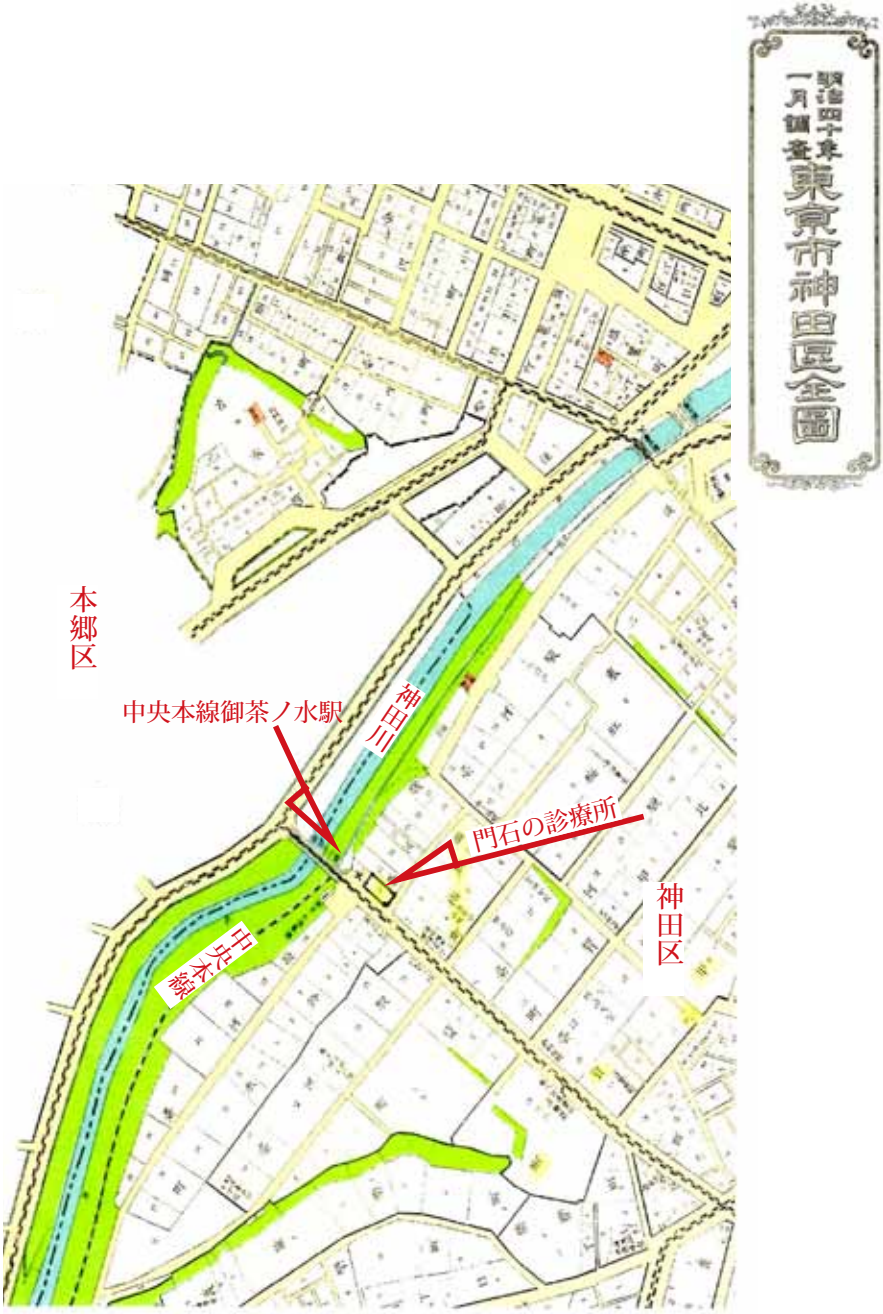
東京に転居後の門石長秋

門石長秋は、明治41年9月30日をもって自らが育てた長野県歯科医師会を退会し、東京に移住する。明治30年、弱冠20歳で見ず知らずの土地で開業し県下の歯科医師をまとめるべく東奔西走し、ついに長野県歯科医師会の設立までこぎつけた彼の実力は、全国的にも高く評価されていた。高山歯科医学院で師弟関係にあった高山紀斎、血脇守之助らに乞われて小県郡上田町で開業した門石であったが、10年後に再び高山らに呼ばれて東京に移ることになる。

門石は31歳になっていた。東京では神田区駿河台西紅梅町10番地に居を構え、診療所を開設した。場所は現在のＪＲ中央線御茶ノ水駅の正面である。明治37年、立川―飯田橋間を走っていた甲武鉄道が御茶ノ水駅まで延長され、39年には国有化されて中央本線の終着駅として賑わっていた。中央本線は、41年に万世橋まで延長されるが、東京（東海道線）、上野（信越線、東北線）、両国（総武線）などそれぞれの路線の終着駅に近く、また観光名所の湯島聖堂や湯島天神、ニコライ堂が至近距離にあり、地の利を得て盛業を極めた。

当時、歯科医師免許を取得するためには、歯科医師の下に最低２年間弟子入りして歯科医学の基礎知識と治療技術を学び、医術開業試験に合格しなければならなかった。当然のことながら繁盛している歯科医師の下には弟子が多数集まった。彼らは診療所の掃除から、器械器具の手入れや消毒、薬剤の調合、足踏みエンジンを歯科医の指示に従って踏んだり、患者への接遇などを学んだ。

明治以後、西洋医学の導入により医術の進歩は目覚しく、それは医科も歯科も同じであった。新しい技術で治療してほしいと歯科患者は急増し、歯科医師を目指す若



明治４０年当時の御茶ノ水駅周辺地図

者が全国から集まった。年に数回、医術開業試験（医師、歯科医師の試験は別々に実施され、学術筆記試験と口頭試問が必須であった）があり、倍率は10倍を超える難関であった。

門石は明治44年8月、診療所に併設して歯科医師養成所である東京歯科医学講習所を設立する。大正7年には校名を東京中央歯科医学校と改称、同12年に廃校するまで毎年多数の医術開業試験合格者を輩出し、歯科医師養成に貢献した。

現在の御茶ノ水駅前西紅梅町

実は門石が上京した最大の理由は、別にあった。明治39年に制定された歯科医師法は欠点だらけだった。歯科医師会内部で不満が高まり、時の会長榎本積一は長野県ですばらしい働きをした門石を東京に呼び戻し、歯科医師法改正のために一働きしてもらおうと考えていた。上京2年目に彼は東京市歯科医師会の役員となり、明治45年には日本聯合歯科医会（後の日本歯科医師会）の常務委員（理事）に抜擢される。欧米における歯科医師法の調査研究、法律専門家への協力要請、国会議員団や医師会への陳情など多くの困難を乗り越えて、大正5年2月27日、念願の歯科医師法改正案が国会を通過した。

大正7年、血脇守之助が日本歯科医師会会長に就任する。門石は自宅を歯科医師会事務所に提供し、庶務担当理事として粉骨砕身血脇会長を支えた。しかし、大正12年9月1日の関東大震災によって東京の中心部は焦土と化し、門石の診療所と歯科医師養成所も消失、失意の中で病を得て、大正15年6月、彼は49歳の短い生涯を終えることになる。人生50年が当り前の時代ではあったが、彼の一生は誠に充実した立派なものであった。

大正期以後の上田小県地域の歯科医療

上田町で2人目の歯科医師が三

東京歯科医学講習所の建物

門石校長と校長室（大正４年卒業アルバムより）

瓶茂吉であることは以前に触れた。明治33年、錦町（八十二銀行上田支店の横の通り）桂旅館向かいの角地で開業。門石の意志を継ぎ、大正13年に東京へ転居するまで上小地域の歯科医師会を牽引した彼は、大正10～11年、第７代長野県歯科医師会会長も務めている。

大正期に入ると、全国的に歯科医師が増加する。これは、門石たちが努力した歯科医師法改正に起因している。医科と同様に歯科においても歯科医学専門学校の卒業生は無試験で開業資格を与えられることになり、専門学校が次々と誕生した。長野県における歯科医師数と人口の変遷を表に示した。

明治時代には、歯科医師も上田医会に属していたが、大正８年に上田市制施行とともに上田医会は上田医師会、小県医師会、上田市歯科医師会に分離された。大正13年、上田市歯科医師会は上縣歯科医師会と改称する。その後、昭和17年戦時色が濃くなると、国民医療法の下で従来の歯科医師会は解散となり、上縣歯科医師会は長野県歯科医師会上田支部と小県支部に分かれることになる。戦後昭和22年には上田市歯科医師会、小県郡歯科医師会となり、再び合併して現在の上田小県歯科医師会となったのは、昭和45年であった。

門石が明治30年（１８９７）上田町で開業して、今年（２０１３）は１１６年目になる。現在の歯科医師会会員数は１１３名、診療所数は92となり、彼が生きていたらその数値に腰を抜かすのではないだろうか。長野県全体では、会員数１１４４名、診療所数９８１となっている。歯科の診療内容も

歯科医師法改正後の記念写真（右から２人目、門石長秋。大正５年３月）

関東大震災後、神田淡路町からニコライ堂方面を望む。（大正１２年９月）

変わった。これからの歯科医療は、むし歯や歯周病、入歯といった疾病治療中心ではなく、予防や定期管理、在宅往診や高齢者の咀嚼嚥下機能の回復といった、これまでとは異なった社会的ニーズに応えていかなければならない。糖尿病や癌などの全身疾患が、口腔保健管理によって病状が改善することもわかってきた。地域の医師、保健師、栄養士、介護福祉士など他職種専門家との連携も求められている。

時代が変わっても、私たちが門石長秋のような先達から学ぶ事は多い。時代の変化に柔軟に対応して、地域住民のニーズに応えていく姿勢は医療人のみならず、どのような分野で仕事をする人にも常に求められている事ではなかろうか。５回にわたって上田小県地域の歯科医療の歴史を連載したが、読者の皆さんに何か参考になれば、筆者にとって喜びとするところである。（完）

〈参考文献〉

解読復刻版長野県歯科医師会史 第１巻 （社）長野県歯科医師会 平成７年

長野県歯科医師会創立１００周年記念誌 （社）長野県歯科医師会 平成18年

合併10周年記念誌・十年のあゆみ （社）上田小県歯科医師会 昭和54年

東京歯科医学講習所第９回卒業記念アルバム 大正４年

表　長野県における歯科医師数ならびに人口の変遷

	明治18年	明治26年	明治27年	明治28年	明治29年
歯科医師数	1	2	3	4	6
人口（千人）	1,057	1,189	1,214	1,233	1,246
	明治30年	明治31年	明治32年	明治33年	明治34年
歯科医師数	8(1)	10(1)	11(1)	14(2)	13(2)
人口（千人）	1,246	1,262	1,283	1,308	1,316
	明治35年	明治36年	明治37年	明治38年	明治39年
歯科医師数	17(3)	17(3)	20(3)	22(3)	23(3)
人口（千人）	1,351	1,347	1,359	1,362	1,383
	明治40年	明治41年	明治42年	明治43年	明治44年
歯科医師数	24(4)	27(4)	29(3)	29(3)	32(4)
人口（千人）	1,391	1,399	1,414	1,432	1,450
	大正 元 年	大正 2 年	大正 3 年	大正 4 年	大正 5 年
歯科医師数	36(3)	46(3)	56(3)	67(4)	85(5)
人口（千人）	1,473	1,482	1,508	1,524	1,542
	大正 6 年	大正 7 年	大正 8 年	大正 9 年	大正10年
歯科医師数	103(9)	117(10)	136(11)	146(11)	184(16)
人口（千人）	1,562	1,561	1,583	1,580	1,562
	大正11年	大正12年	大正13年	大正14年	大正15年
歯科医師数	209(21)	266(27)	292(25)	310(26)	321(28)
人口（千人）	1,601	1,620	1,643	1,629	1,643

＊　（　）内は、上田小県地域の歯科医師数の推移
＊　全国歯科医師数の推移
明治18年　40名
大正元年　1,531名
大正15年　10,387名

あとがき

ここ半年ほどの間に意欲的なシニア３人と話をする機会があった。３人とも80代で、表情はとてもイキイキとしていて、声にもハリがある。姿勢も真っ直ぐで、とてもその年齢は感じなかった。ひとりは農業、ひとりは地域活動、もうひとりは趣味、と生活のパターンは異なるが、揃って活動的だ。そして健康である。

この前向きなパワーはどこから来るのか。話の端々からヒントを探ってきたが、ようやくわかったことがある。「好奇心」と「行動力」である。日々の生活の中で出会う目新しいことに対して「あっ、おもしろそう」とすぐに興味を持つ。彼らはここでとどまらないで、その興味を行動に移す。フットワークの軽さが身についている。

例えば、ある女性はご主人の遺品の中からギターを見つけた。ケースが開かないほど錆びついていたが、それを楽器店に持ち込んだ。「良いギターですねぇ」と言われ、せっかくだからと、そこで調律してもらう。そうしたら自分で弾きたくなり、レッスンを受けるようになった。数ヶ月後、ギターの名曲「禁じられた遊び」をマスターし、いまではその軽やかな旋律を楽しむ。

また、ある男性は農業をする上での試行錯誤を楽しむ。挿し芽をしたり挿し木をしたり、栽培方法を変えてみたり。いつも「もっと良い方法はないか」を考える。失敗しても気にしない。翌年違った方法で試す。

「気力は眼に出る。生活は顔色に出る。年齢は肩に出る。教養は声に出る」は土門拳の「死ぬことと生きること」の中の言葉だが、３人を思い出すたび「全くその通りだ」と納得する。（木漏れ日）

環スタッフ：　伊藤文子　海野 郁　西入幸代
東方明子　宮下明彦　矢幡正夫　吉池みどり

環（かん）　千曲川地域の人と文化　　第 10 号　　山笑う
２013年４月発行
NPO 法人上田図書館倶楽部

表紙及び文中の写真は無断使用を禁じます